

4 AL型授業実践報告

1) 国語科

本校は4年制大学へ進学する生徒がほとんどであり、センター試験、大学入試で対応できる力を付けることを根幹に授業を行っている。そのような中で、今後の大学の新入試制度に備えてアクティブ・ラーニング(以下「AL」)を核とした授業作りをしていく必要性もある。そのため、現行の入試制度に対応しつつ新入試にも対応できる授業を研究し実践を行った。

a) 今年度の取り組み

現行の大学入試に対応するため、また、ALを実践するためにも、まずは基礎、基本の定着を確実に行えるようにしている。日々の授業の予習はもちろん、週に1回の漢字テスト、古文単語テスト(両テストとも不合格者は再試を実施)、週末の課題提出等を課している。また、春夏冬の長期休み明けには課題テスト実施している。

こうした基礎学習の上に、ALを授業の一部分や単元のまとめなどで実践している例がある。知識の確認のために簡単なペア学習を実施し、単元のまとめとして、グループ学習にて主題についての意見交流やポップを作り発表するなどを行っている。

一方、1年生では古典で6月から毎時間ALを実践したケースもあった。まずクラスを8班に分け発表箇所を割り当て、語句調べ等を行わせる。その後、班ごとに学習成果を発表しそれに対する質疑応答を行い、最後に教師が補足説明をする。こうした取り組みの結果、次のようなプラスの効果が見られている。生徒が予習に前向きに取り組むようになる、進度が早くなる、実施したクラスの成績がそうでないクラスより向上する、などである。

国語はそもそも授業参加者双方向のAL型授業が多いので、改めてAL型に変えることはないという教員が多いが、上記の一年生での実践以外に、敢えて積極的なALに挑戦した取り組みとして以下にその事例を紹介する。

b) 実践事例

3年生の文系特進クラスで「入試問題の出題者を意識して自分たちで問題を作成する」という授業を7月と10月の二回実施した。7月ではペア、10月ではグループ学習を行った。詳細は生徒に配付した実施要領(資料)に掲載したので参照されたい(資料の予定より読解の時間を1時間増やした)。

【ねらい】

- A AL中心の授業展開をすること。特に生徒達がアウトプットすることを重視する。
- B 受験に対応できる授業にすること。

① 7月の実践

教材：『堤中納言物語』の「虫愛づる姫君」、全5時間

【授業者の感想】

ペアで行ったので、積極的に教え合いはできていたと思う。問題も独創的なものや入試問題と同様のものがあり、面白くもあり少しは効果もあった。しかし、感想に問題作成が難しかったという感想が多かった。ねらいである「出題者を意識する」はできていない生徒がほ

とんどのように感じられた。ねらいが難しすぎたと反省している。

【生徒の感想】

- ・文法や単語など二人でやっていくと単語集をみるより覚えやすい。
- ・教科書を読むより気を付けて読むから価値はあったかも。
- ・問題を作る難しさを感じた。(多数あり)

②10月の実践

教材：『宇治拾遺物語』の「東北院菩提講の聖の事」、全5時間(研究授業を4時間目に実施)

- ・ねらいBの実践として入試問題の出題者の意図を考えると同時に、アウトプットや人に教え合うことをメインに焦点を絞った。
- ・ペアからグループに変更した。グループの方がより深く読解できると考えたため。

【授業者の感想】

教え合いに焦点を当て、それを生徒たちに十分に意識させたので、他の先生の意見(後述)にもあったように、読解を楽しそうに活発に話し合い、教え合いができていた。また、知識定着確認の入試問題もほとんどの生徒が6～7割の点を取れた。グループ活動にしたことは、様々な意見が出てきて、参考になったという点はよかったが、積極的に活動できない生徒も中にはいたので、ペアで行ったほうが良いとも思った。

【生徒の感想】

- ・発展的な内容をグループで確認できたので良かった。(文学史など)
- ・教え合いを通して、自分の不十分な知識を確認できた。
- ・おもしろかった。
- ・単語の意味をグループで確定したが、答えと違ってしまった。

【参観した先生方の意見、感想】

- ・生徒が活発に活動できていた。
- ・読解の内容に絞って話し合いを行うこともありかと思った。(相人の判断について)
- ・下準備が大変そう。 ・3年生の10月に行うべきか？
- ・特進クラスだからできたのでは？やはり、知識が定着している必要あり。

【実践のまとめ】

今回のねらいであるAに関しては、2回ともある程度できていた。これは1年次から授業でペア学習を行っていたので、生徒も積極的に取り組めた。しかし、助言者の意見にもあったように、ある程度の知識が定着している特進クラスだからこそ積極的に取り組めたことも否定できない。Bに関しては、なかなか難しいねらいであったと反省している。受験対応を考えながら、AL中心の授業展開を行いたかったができなかった。今回の手ごたえから次回、さらに新たな方法を考え実践したい。

最後に、今後同じ授業をするならば、2、3年生の4月当初に行いたい。2回行って一番感じたことは、生徒たちが知識をアウトプットすることで自分の知識の不十分さを認識できる点である。4月当初に教え合うことで不十分な点を確認、また、知識の確定や理解につながる分かれば、その後の授業でも簡略なALも効果的に実施できるとも考える。

(文責：波勢)

別紙1

振り返りシート 残り5分で書くこと!!

出題者を意識して問題を作ろう!!

目標 文章を読解して、人に教え合える。

ねらい

- ・文章を読解する中で、互いに教え合いを行い、知識を深め合う。(基礎・基本の定着、確認)
- ・問題作成者の意図を理解しながら解けるようになる。

名前 () グループ名 :

グループの目標

各自の目標

簡単な授業の流れ

1、2時間目 4~5人で読解をする。問題作成。

3時間目 問題を交換して解く。各自で解説。

4時間目 実際の大学が出題した問題を解く。

(↑100点取れなければ授業の意味なしぐらいの気持ち)

1~5段階の自己評価を行うこと。数字が高い方が良い評価。

具体的な流れ

1、2時間目

グループで辞書、文法書を参考に丁寧に読解する。問題作成のため、各自がしっかりと説明できなければ意味がない。

1時間目 本時間の目標達成度 グループ () 自己 ()

学習、理解したこと と 感想、意見、疑問など

2時間目

問題作成。出題意図を考えながら出す。だいたい平均6割の問題が好ましいとされる。

2時間目グループ 本時間の目標達成度 グループ () 自己 ()

学習、理解したこと と 感想、意見、疑問など

出題形式 全五問。20点満点。で配点すること。

1問 単語 選択肢でも記述でも可。

2問 文法 選択肢でも記述でも可。←発展的な内容が好ましい

3問 内容 選択肢のみ。

4問 内容 記述式。

5問 その他何でも可。

3時間目 本時間の目標達成度 グループ () 自己 ()

学習、理解したこと と 感想、意見、疑問など

3時間目

お隣さんグループで交換、テスト開始10分~15分。

採点開始。終了グループから解説と意図の説明。再度、深め合う。問題紹介。

4時間目本時間の目標達成度 グループ () 自己 ()

学習、理解したこと と 感想、意見、疑問など

4時間目

実際の入試問題にチャレンジ!この問題が解けるかどうかで学習効果を見極める。

ハセの解説。+クラスメイトの作成問題の紹介。

↑生徒に配付した実施要領

↑振り返りシート

↓生徒達が作成した問題↓

